

東海新報

令和元年 (2019年) 7月25日 (木曜日)

未来図会議で実践例共有

にぎわい創造の重要性確認

陸前高田

本年度2回目の陸前高田市未来図会議は、このほど、高田町の市コ

ミュニティホールで開かれた。市民が語り、交流する居場所「はまかだスポット」の役割も担うイベントなどを手がける関係者を講師に招き、参加者が取り組みを聞きながら、誰もが集えるにぎわいづくりの重要性を確かめ合った。

未来図会議は、市民活動やまちづくり、子育て支援など同市のあらゆる分野、立場の市民を巻き込み、「健康

で幸せを感じられる陸前高田」を築こうと議論する場。会議を通じて参加者間の新たなつながりも育もうと、定期的に開催している。今回は35団体から約60人が参加。市福祉部の齋藤晴美部長が「生の意見を聞ける貴重な場。多くの団体が参加している。交流の場としても活用してほしい」とあいさつした。

テーマは「はまかだ賑わいアップ作戦会議」。同市などは、にぎわい創造にもつながる取り組みを実践している市内120カ所を「はまかだスポット」として独自に指定しており、このうち3事業所・団体が取り組みを発表した。

この中で、高田町の中心市街地で青空市「ふくふく市」を定期開催している同市実行委は、市を始めた経緯やイベントに込めた思いを紹介。今後の目標として「にぎわいを取り戻し、次世代へつないでいけるよう、いろいろなことをやっていきたい」と語った。

その後、市ノーマライゼーション大使の岩室伸也氏が「みんなちがって、みんないい」それぞれの賑わいが地域を元気にする」と題して講話。最後は参加者がこの日の事例発表や講話を踏まえ、意見を交わした。

次回は、11月14日(木)午後1時30分～3時30分、高田町の市保健福祉総合センターで開催する予定。

にぎわいづくりに向けて活動する団体の発表などがあった会議

